



と ろ

清淨

- あいさつ..... 2
- 観察園「カエデの森」をつくります..... 3
- 企画展『多様な埼玉の生きもの～虫・むしワールド～』..... 4
- 出張授業と県政出前講座が新しくなりました..... 6
- 楽しさいっぱい 自然の博物館の夏休み..... 7
- 表紙解説・催し物（7月～10月）のお知らせ..... 8

あいさつ

根 岸 玲



平成23年4月から自然の博物館でお世話になることになりました根岸です。

井上前館長同様よろしくお願いたします。

私は、今、本紙「埼玉県立自然の博物館ニュースレター」の原稿を書いているところです。というよりは文章を書くことが苦手で、なかなか進まないのです。そのような訳で、窓の外に目をやると、緑を増した木々の葉が風にそよいでいる姿が見えます。季節のうつろいは早いものです。少し前には、長澗の桜並木が一斉に花を咲かせていました。また、荒川沿いには、まだ萌葱色の木々の合間に桜が見えました。さながら自然の織りなすグラデーションのようです。カエデも目にすることができます。秋にはライトアップされ、紅葉がとても美しいと聞いています。

ところで、新聞報道などでご存じの方も多と思いますが、フランスのミシュランが5月13日に発行した旅行ガイド「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」に長澗町が県内で初めて掲載されました。自然の博物館も紹介されています。化石等の地学展示、ジオラマの生物展示、さわれる剥製コーナーなどが評価されたようです。宝登山神社が「興味深い」を意味する一つ星となっています。

80年以上の歴史を持つミシュラン・グリーンガイドには、好奇心に満ちた旅行者が、訪れる土地をよりよく理解し、充実した旅を楽しめるような情報が満載されており、豊かな自然や多彩な文化に触れることができる興味深い観光地が紹介されているとのことでした。

さて、自然の博物館は埼玉の自然、人のくらしと自然との関わりに関する資料の収集・保管及び調査研究を行うとともに、その活用を図り、もっ

て教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的に平成18年度に設置されました。「過去から未来へ埼玉3億年の旅、そして自然との共生」がテーマです。本館の沿革は遠く大正時代まで遡ることができます。大正10年、秩父鉄道株式会社により、「鑛物植物標本陳列所」が当地に設立されました。昭和24年には「秩父自然科学博物館」となり、秩父地域の自然史研究の拠点として知られてきました。

昭和56年、埼玉県は、それらを継承しつつ、埼玉県立自然史博物館を設置しました。その後、県立博物館施設の再編整備により埼玉県立自然の博物館として現在に至っています。

今年度の事業ですが、企画展や共催展などの展示事業、体験学習などの教育普及事業等を実施します。職員が学校に出向き、理科の授業や総合的な学習の時間などをサポートする出張授業等も行っています。是非、活用いただければと思います。また、本館の敷地内に観察園「カエデの森」を新たに整備します。カエデは全国で日本産27種が生育していますが、その内、21種が埼玉県で自生しています。まさに本県の自然の多様性を象徴する植物の一つと言えます。

「カエデの森」は、本館の屋外展示として位置づけ、埼玉の自然の多様性を学べる場、環境教育の生きた教材となるよう整備していきます。多くの皆様方に気軽に立ち寄っていただけるように散策路なども設ける予定です。次に、本館は建築後約30年が経過し、施設の老朽化が見られるようになり、今年度から来年度にかけて改修工事が実施されることになりました。そのため、9月から休館する予定です。皆様方のご理解をお願い申し上げます。

今後とも、専門性を発揮し、魅力ある、安心・安全な博物館であるよう取り組んでまいりますので、引き続き皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

(ねぎし あきら・館長)

観察園「カエデの森」をつくります

若松良一

カエデの森とは

今年度、博物館構内に観察園「カエデの森」を整備することになりました。現在、埼玉県内では、日本にある27種のカエデのうち、21種が確認されていて、種類の多さは全国でもトップクラスです。このことは、埼玉県の自然環境の豊かさを示しています。

「カエデの森」には、奥秩父などに自生しているカエデの原木を移植する計画です。また、園内には歩きやすい散策路を設け、解説板を整備します。ゆっくり歩きながら観察して頂くことによって、バラエティーに富んだカエデの葉の形や、種子の落ち方、紅葉のしかたなどについて学ぶことができます。このため、博物館では「カエデの森」を単なる庭園ではなく、屋内展示と結びつけた屋外生態展示として位置付けることにしています。

カエデの多彩さ

カエデは約6,000万年前にムクロジ科から分かれて、主に北半球の各地に広がったため、種が多様化しました。たとえば、葉の形状は、

- ① 切れ込みのない一枚葉（チドリノキ・ヒトツバカエデ）
- ② 三つに切れ込む一枚葉（ウリカエデ・テツカエデなど）
- ③ 五つ以上に切れ込む一枚葉（イロハモミジ・コミネカエデなど）
- ④ 小さな葉が山字形に3枚集まっているもの（ミツデカエデ・メグスリノキ）に分類することができます。

紅葉の美しい代表的なカエデであるイロハモミジの印象を強く受けている多くの人々にとって、①・②・④もカエデといわれたら、「エッ 本当？」となるのではないのでしょうか。

また、垂直分布の違いがあり、テツカエデ・ミネカエデ・オガラバナは、標高1,300m以上の高地にしか生育していません。

カエデの楽しみ方

カエデは冬の落葉前に、紅や黄色に紅葉します。四季の変化に富んだわが国では、万葉の昔から、紅葉を愛でて、紅葉狩りを楽しみ、和歌を詠むといった風習が、今日にまで引き継がれています。博物館前の月の石広場には、イロハモミジとオオモミジが植栽されていますが、紅葉のころには、長瀬町観光協会によるライトアップが行われ、多くの観光客を集めています。夜空をバックに、浮かび上がるカエデの姿は息をのむほどの美しさです。この時期には、博物館では、土日と祝日に開館時間延長を行って、お客様をお迎えしています。しかし、若葉のころに咲くカエデの可憐な花、緑陰を作る夏葉もなかなか美しいものです。

「カエデの森」の整備事業は、館内の選抜チームが事務局となり、森林生態学・林学・植物園・造園・観光の専門家からなる外部委員会の指導・助言を受けながら、進めております。リニューアルオープンの暁には、長瀬の新名所として皆さまをお迎えできるよう、頑張っまいますので、よろしくお願ひします。

（わかまつ りょういち・学芸主幹）



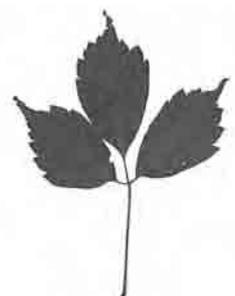
ヒトツバカエデ



ウリカエデ



イロハモミジ



ミツデカエデ

企画展『多様な埼玉の生きもの～虫・むしワールド～』

展示期間：6月28日（火）から8月31日（水）まで

碓 井 徹

この夏、2階の展示『多様な埼玉の生きもの』の中に、昆虫の特集コーナーを用意しました。名付けて『虫・むしワールド』。

本県で見られる多様な昆虫類を、たくさんの標本と生態写真などで紹介しています。おなじフロアには、埼玉県に生息する希少な野生動植物の剥製・標本やレプリカ、外来の動植物の生態写真などの展示もあり、虫たちの様々な生活を支えている多様な自然環境についても合わせてご覧いただけます。

埼玉県は、全国的にみても生息する昆虫相について非常によく調べられている都道府県のひとつで、これまでに約1万種の昆虫が記録されています。今回はそのうちの350種類ほどを選んで40箱の標本箱に並べて展示をしていますが、その中から、特に注目していただきたい標本について、ここでいくつかご紹介しておきます。

◆埼玉県からはすでに絶滅してしまった、日本最小のトンボといわれるハッチョウトンボの、およそ50年前に県内で採集された標本（写真1）。

まだマイカーなど誰も持たず、地図も十分に手に入らなかった当時、昆虫採集へは電車やバスで出かけ、有名な山でもない限り、採集場所の地名には駅やバス停の名前を書くのが一般的でした。

この標本のラベルに記された『武蔵高萩』は、現在の日高市にあるJR川越線の駅名です。採集者は、武蔵高萩駅で列車を降り、徒歩で昆虫採集をしながら女影地区にある仙女ヶ池に辿り着いて、このハッチョウトンボを採集したようです。

◆埼玉県で唯一、県条例で『採集禁止』になっている昆虫のソボツチスガリ（写真2）。

ミツバチよりもずっと小さなハチであるソボツチスガリは、小型のゾウムシ類の成虫を捕獲して巣に運び込む、という珍しい習性をもつ狩りバチの一種です。（写真3）

このハチがなぜ本県では採集禁止になっているのかという解説も含めて、貴重な標本と興味深い生態写真とで、この希少なハチの不思議な生活を

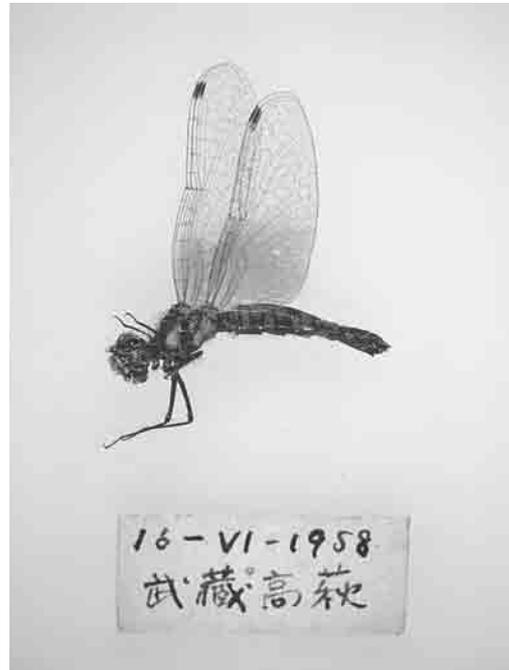


図1 埼玉県産ハッチョウトンボ



図2 ソボツチスガリの標本



図3 ゾウムシを運ぶソボツチスガリ

紹介しています。

また、『虫・むしワールド』に合わせて、隣接する“季節展示コーナー”でも、2期にわけて次のような内容で昆虫を取り上げています。

『海を渡るチョウ アサギマダラ』

展示期間 6月28日(火)～7月31日(日)

TVや新聞などでもしばしば取り上げられている大型で美しいマダラチョウの特集コーナーです。

アサギマダラは、捕獲してハネにマークをつけて放し、それが別の場所で再捕獲されることによってかなりの距離を移動することがわかってきました。これまでに、日本国内で2000kmを超えるほどの長距離を移動した例も知られています(図4)。

これらの移動調査にはインターネットによる情報交換が積極的に用いられており、虫に印をつけて放すという古典的な研究手法と、インターネットという新しいテクノロジーが結びついて、非常に興味深い調査が全国規模で展開されています。

これまで、他県でマークされて埼玉県で再捕獲されたアサギマダラは6例が知られており、その全データを写真やパネルで紹介しながら、この不思議な能力をもつチョウの魅力を解説しています。あわせて、マーキング調査の手法や関連書籍などの情報についても紹介しています。

『セミとアメンボは友だち』

展示期間 8月1日(月)～8月31日(水)

チョウやガ、クワガタムシにセミ、ハチ、アメンボ、トンボなどなど、私たちの身の回りにはじつに多種多様な昆虫が生活しています。

それらいろいろな昆虫を体のつくりなどから分類してみると、驚いたことに、セミとアメンボは同じグループの昆虫だということがわかります。しかも、これらは、くさい臭いを出すことで有名なカメムシの仲間なのです。

このコーナーでは、埼玉県の平野部でみられるおなじみのニイニゼミやアブラゼミ、ヒグラシなどを生態写真と鳴き声で、また、じっくりと観察する機会の少ないアメンボたちの生活を生態写真で紹介します(図5,6)。



図4 長距離移動をするアサギマダラ



図5 保護色のみごとなニイニゼミ



図6 ハネナシアメンボ(正式な和名です)

お隣の『虫・むしワールド』では、埼玉県でみられる11種のセミと9種のアメンボの標本も展示しています。

ところで、カメムシとセミとアメンボの体のつくりには、どんな共通点があるのでしょうか？

ぜひ、この展示をじっくりとご覧いただき、その答えを探し出して下さい。

(うすい とおる・担当課長)

出張授業と県政出前講座が新しくなりました

向井 均

埼玉県立自然の博物館では、学校に出向いて理科や総合的な学習の時間などをサポートする出張授業や、公民館や社会教育施設などを対象に県政出前講座を実施しております。

『日本地質学発祥の地 長瀬』の地質観察を始め、動植物の観察、化石採集、水質調査など、埼玉の自然に関して当館の学芸員が各専門分野を活

かした体験講座を実施しております。今年度、内容の見直しをはかりましたので、新しくなった各講座に奮ってお申し込みください。

なお、具体的な実施内容などの詳細については、利用する学校や公民館などのご要望やご都合に合わせてことができますので、お気軽にご相談ください。

出張授業 & 出前講座の具体的な内容

- 長瀬岩畳・虎岩付近の地質観察・案内
- 水生昆虫の観察と環境調査
- 身近な川の水質調査と分析
- 動物（昆虫）、植物、化石の観察・名前調べ
- 校内岩石園や植物園の石や植物の名前調べ
- 理科・総合的な学習の時間のサポート など

昨年度の実践例から



本庄市立中央小学校 4年生
理科 [校内の植物観察と植物マップづくりなど]



秩父市立尾田蒔中学校 1～3年生
総合的な学習の時間 [荒川上流の水生昆虫採集と観察など]



長瀬町立長瀬第二小学校 3年生
総合的な学習の時間 [岩畳付近の地質と植物の観察など]



県立所沢西高等学校 SPP事業
選択授業 [花粉化石の分析と観察など]



臨時休館と移転先のお知らせ

当館は、開館以来30年が経過し、施設設備の老朽化が進んだため施設工事を実施することとなりました。そのため、平成23年9月1日より平成25年1月11日までの間、臨時休館いたします。皆様には、たいへんご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

また、施設工事中は、当館は寄居町末野にあります、旧埼玉県立寄居養護学校の跡地に移転いたします。休館中も出張授業や県政出前講座は従来どおり実施いたしますので、ぜひご利用ください。

なお、休館中の連絡先は、住所以外はTEL、FAX E-mail、URLともすべて、以前と同じです。

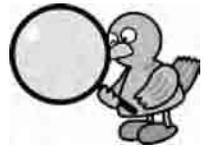


住所：〒369-1205大里郡寄居町末野2109
TEL：0494-66-0407（企画・広報担当）
FAX：0494-69-1002
E-mail：shizen@po.kumagaya.or.jp
URL：http://www.shizen.spec.ed.jp

（むかい ひとし 担当部長）

楽しさいっぱい

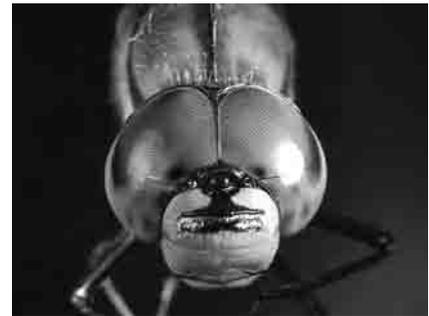
自然の博物館の夏休み



自然の博物館では、夏休み期間中、楽しくてためになるイベントをたくさん用意しています。事前に申込みが必要なイベントもありますのでご注意ください。詳しくは博物館へお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。
皆様のご参加をお待ちしております。

企画展

埼玉の多様な生きもの 虫・むしワールド
開催中 (8月31日まで)
いろいろな虫の標本や写真が大集合します。



7/23[±]

太古の火山灰をさぐる

時間 13:30 ~ 16:00
申込 必要
費用 300円

火山灰層中の鉱物を顕微鏡などで観察します。



7/30[±]

理科自由研究相談室 ヒント編

時間 10:00 ~ 16:00
申込 不要
費用 観覧料

自然分野の自由研究について、内容の相談を受けます。

8/6[±]

トンボ博士になろう

時間 10:30 ~ 15:30
場所 羽生水郷公園
申込 必要
費用 300円

羽生にある水郷公園の沼でいろいろなトンボを観察します。



8/20[±]

理科自由研究相談室 まとめ編

時間 10:00 ~ 16:00
申込 不要
費用 観覧料

自然分野の自由研究のまとめ方について、相談を受けます。



○場所の記載がないイベントは自然の博物館内で開催します。

○ホームページ

埼玉県立自然の博物館

検索

表紙の解説

2008年10月3日撮影

山のチョウと特定外来植物の出会い

長距離移動をするチョウとして知られるアサギマダラ（タテハチョウ科）は、埼玉県では夏の山で出会うチョウ、として認識されてきました。

ところが、この写真が撮影された場所は、深谷市を流れる利根川河川敷です。10月のよく晴れた日には、このように埼玉県の平野部の一角に、アサギマダラが出現するようになりました。多い時には、一度に数頭が群れ飛ぶ姿も見ることができます。

“夏の山のチョウ”が秋の平野部でしばしば目撃されるようになった最も大きな要因は、この写真に写っている植物だと考えられます。その正体は、特定外来生物にもリストされている水生植物のミズヒマワリ。1990年代に水槽に植える水草として南アメリカから輸入されたものが、ここ10年ほどの間に西日本と関東地方の各地で逸出して在来の水生植物をおびやかすようになりました。

ミズヒマワリは、その繁殖力の強さには驚くべきものがありますが、訪花昆虫に対する誘引性もたいへん強いものです。特に、アサギマダラはこの花に非常に強く惹かれるようで、利根川河川敷にミズヒマワリが繁茂し始めた2005年頃から、埼玉県平野部でのアサギマダラが目撃例が急増しています。

(碓井 徹・担当課長)

催し物のお知らせ（7月～10月）

あなたも参加してみませんか

シリーズ	行事名	実施日	実施時間	対象(人数)
企画展示	多様な埼玉の生きもの +特設「虫・むしワールド」	6月28日(火)～8月31日(水)	9:00～17:00	一般
季節展示コーナー	海を渡るチョウ「アサギマダラ」	6月28日(火)～7月31日(日)	9:00～17:00	一般
	セミとアメンボは友だち	8月1日(月)～8月31日(水)	9:00～17:00	一般
体験教室	ミクロの世界をのぞこう	7月2日(土)	13:30～15:30	小学生には保護者同伴※2
自然史講座	太古の火山灰を探る	7月23日(土)	13:30～16:00	中学生以上(20名) ※1(参加費300円)
	授業に役立つ自然史体験講座	8月4日(木)	9:30～15:30	教職員、公民館職員のみ(32名) ※1(参加費無料)
観察会	トンボ博士になろう!	8月6日(土)	10:00～15:30	一般(30名)※1(参加費300円) さいたま水族館前集合・解散
	秋のきのこ探し(初心者コース)	10月2日(日)	10:00～15:00	小学5年生以上(15名) ※1(参加費300円) 秩父鉄道・親鼻駅前集合・解散
その他の事業	理科自由研究相談室(ヒント編)	7月30日(土)	10:00～16:00	小学生には保護者同伴※2
	理科自由研究相談室(まとめ編)	8月20日(土)	10:00～16:00	小学生には保護者同伴※2

- ※1は、事前申込です。実施2週間前の火曜日までの受け付けで、定員を超えたときは抽選とします。「往復はがき」か「WEBサイト登録フォーム」または「電子申請」で、お申し込みください。
- ※2は、当日申込です。受付順です。入館料は必要です。
- 詳しいことは博物館にお問い合わせください。



埼玉県立自然の博物館ニュースレター 瀬 第16号 平成23年7月15日発行
 編集発行 埼玉県立自然の博物館 〒369-1305 埼玉県秩父郡長瀬町長瀬1417-1
 TEL 0494-66-0404(総務担当) 0407(学芸担当) FAX 0494-69-1002
 URL <http://www.shizen.spec.ed.jp/> E-mail shizen@po.kumagaya.or.jp